

【臨床・研究】

当院におけるステント型血栓回収デバイス を用いた急性期血行再建術の治療成績

さ くわ ま ゆ こ たけ うち ひろ ひこ す とう ゆたか
佐 栞 真悠子¹⁾ 竹 内 裕 彦¹⁾ 周 藤 豊¹⁾
おお ばやし なお ひこ ふく だ ひろ き
大 林 直 彦²⁾ 福 田 弘 毅¹⁾

キーワード：脳梗塞，rt-PA，血管内治療，ステント型血栓回収デバイス

要 旨

2014年12月～2017年11月に急性期前方循環系主幹動脈閉塞に対してステント型血栓回収デバイスを用いて血管内治療を施行した44例について検討した。平均年齢76.5歳，閉塞血管は内頸動脈16例，中大脳動脈28例であった。発症から来院までは平均168分，発症から血管穿刺までは平均247分，血管穿刺から再開通までは平均61分，来院から再開通までは平均150分，発症から再開通までは平均308分であった。入院期間は平均32.8日で，転帰良好とされる mRS 0-2 は16例（36.4%）であった。高齢者や重症例に対する治療が多かったため良好な再開通率の割に退院時の症状の改善が十分でない症例の割合がやや多かった。治療成績向上のためには，治療開始まであるいは再開通までの時間短縮を図る必要があり，院内スタッフへの教育，院内連携体制の見直しだけでなく市民への啓蒙活動や救急隊との連携が必要である。

はじめに

わが国では急性期脳梗塞に対する治療として recombinant tissue plasminogen activator (rt-PA) 静注療法が認可され，その有効性が確立されている。2012年には治療開始可能時間が3時間から4.5時間に延長された。しかし，内頸動脈や中大脳動脈近位部閉塞例への効果は限定的であ

る¹⁾。そこで，rt-PA 投与で効果が得られない症例や rt-PA 適応外の症例に対し，脳血管内治療による再開通療法が試みられてきた。2014年7月に保険収載され使用可能となったステント型血栓回収デバイスの Solitaire FR（以下 Solitaire），Trepo PROVUE RETRIEVER（以下 Trevo）は，複数の RCT で有効性が報告されている。現在，当院でも積極的に血管内治療による急性期血行再建術を施行しており，2014年以降使用を開始したステント型血栓回収デバイスでの治療成績について検討したので報告する。

Mayuko SAKUWA et al.

1) 松江赤十字病院脳神経内科 2) 同 脳神経外科

連絡先：〒690-8506 松江市母衣町200

松江赤十字病院脳神経内科